

# Multiple Translation Communities in Japan



国際シンポジウム - 日本における翻訳学の行方Ⅱに向けて

トランスレーション・コミュニティ 多元・多文化・多目的

【Date】 2011.03.19(Sat) 9:00開場、9:30開演～18:00終了予定

【Venue】 立命館大学朱雀キャンパス1F多目的ホール

ヴィンセント・ラファエロ (ワシントン大学)

"Targeting Translation: US Counterinsurgency and the Weaponization of Language"

他9名が「コミュニティと翻訳」「詩の翻訳」「メディア翻訳」をテーマに発表。

【企画】 カレン・ベヴァリー (愛知淑徳大学)

佐藤=ロスベアグ・ナナ (イーストアングリア大学)

田辺希久子 (神戸女学院大学) [あいうえお順]

【参加費】 2000円 (学生は1000円、ID持参の事)

【申込み】 資料の入手を確実にしたい方は3月9日までに(1. お名前 2. 所属 3. 連絡先 4. 領収書の有無) を記載の上、下記のアドレスに申し込んでください。

申し込みアドレス (申し込みのみ): [kansai-symposium@translationstudies.net](mailto:kansai-symposium@translationstudies.net)

お問い合わせ: [kansai-info@translationstudies.net](mailto:kansai-info@translationstudies.net)

詳細: <http://translationstudies.net/kansai/>

国際シンポジウム-日本における翻訳学の行方Ⅱに向けて  
トランスレーション・コミュニティ-多元・多文化・多目的

English <http://translationstudies.net/kansai-en/>

- 【日時】 2011年3月19日(土)  
9時開場 9時半開演 18時終了予定
- 【場所】 立命館大学朱雀キャンパス1階多目的ホール  
[http://www.ritsumeiji.jp/accessmap/accessmap\\_suzaku\\_j.html](http://www.ritsumeiji.jp/accessmap/accessmap_suzaku_j.html)  
(駐車場・駐輪場はございません。公共の乗り物でお越しください)
- 【主催】 関西トランスレーション・スタディーズ研究会
- 【共催】 立命館大学国際言語文化研究所プロジェクトB3 (代表・西成彦)
- 【企画】 [あいうえお順]  
カレン・ベヴァリー (愛知淑徳大学)  
佐藤=ロスベアグ・ナナ (イーストアングリア大学/立命館大学)  
田辺希久子 (神戸女学院大学)

- 【資料費等】 2,000円 (学生は1,000円—ID持参のこと)
- 【申込】 定員は、60名です。参加を希望される方は、3月10日までに①お名前、②所属、③連絡先、④領収書の有無、を記載の上、下記のアドレスに申し込んでください。定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

申込アドレス (申込のみ): [kansai-symposium@translationstudies.net](mailto:kansai-symposium@translationstudies.net)  
お問い合わせ: [kansai-info@translationstudies.net](mailto:kansai-info@translationstudies.net)  
詳細: <http://translationstudies.net/kansai/>

【目的】  
2010年1月9日10日に立命館大学衣笠キャンパスにおいて日本初の Translation Studies に関する国際会議「日本における翻訳学の行方-Translation Studies in the Japanese Context」(主催:立命館大学先端総合学術研究会・主催者:佐藤=ロスベアグ・ナナ、渡辺公三)が開催された。本国際会議では世界12ヶ国から集まった42組が口頭発表やポスター発表を行い、世界15ヶ国から約160名が国際会議に参加し、会場では、白熱した議論が2日間に渡って繰り広げられた。その後、本国際会議に刺激を受けて、次回の会議の開催を願う関西圏の有志が集まり、関西トランスレーション・スタディーズ研究会を発足、次回の国際会議「日本における翻訳学の行方Ⅱ」に向けた国際シンポジウムを開催する運びとなった。  
本国際シンポジウムの目的は、2010年1月の国際会議に引き続き、1980年代から欧米を中心に展開している Translation Studies (TS) の受容が、日本においてどのように可能になるのかの議論を深めることにある。今回は、学際的な学問としてある TS を「翻訳とコミュニティ」「メディア翻訳」「詩の翻訳」という3つのテーマから問い、議論を深め、次回の「日本における翻訳学の行方」に紡いでいきたい。

\*本シンポジウムは日本語または英語にて行われますが、質疑応答の際には通訳が入ります。

【講演者と題目】

[招待講演]

ヴィンセント・ラファエロ氏 (ワシントン大学)

“Targeting Translation: US Counterinsurgency and the Weaponization of Language”

パネル「翻訳とコミュニティ」

[司会] 田辺希久子 (神戸女学院大学)

[発表者]

武田珂代子 (モントレイ国際大学)

「通訳教育における「サービス・ラーニング」

長谷川豊彦 (滋賀県立大津清陵高校馬場分校教員)

「外国籍生徒 (ニューカマー) について」

前川和美 (関西学院大学)

「大学生を対象とした日本手話教育について」

パネル「メディア翻訳」

[司会] カレン・ベヴァリー (愛知淑徳大学)

[発表者]

マートライ・ティタニラ (早稲田大学演劇博物館)

「新藤兼人『藪の中の黒猫』における文学・劇的な要素の受容」

塚越祐佳 (詩人・翻訳家) と ジュディ・ハレブスキ (ドミニカ大学)

「エキマエー言語と詩の境界線を越えて」

坂本 徳仁 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)、鹿島 萌子 (立命館大学大学院先端

総合学術研究科)、渡邊 あい子 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)

「聴覚障害者の情報保障」概念の歴史的考察」

パネル「詩を翻訳する」

[司会] 佐藤=ロスベアグ・ナナ (イーストアングリア大学)

[発表者]

大野光子 (愛知淑徳大学)

「翻訳の海に浮かぶ「言葉の小舟」——アイルランド現代詩翻訳者の立場から」

朴銀姫 (仏教大学)

「尹東柱詩の日本語訳について」

アングルス・ジェフリー (西ミシガン大学)

「時代を通じて流れるたつた川 ——百人一首の翻訳を通して歴史を読む」